福祉環境委員会行政調査報告（令和６年度）

福祉環境委員会委員長　　髙　瀬　勝　也

１．日程

令和６年８月 27 日～８月 28 日

２．調査項目

（１）東京都（８月27日）

・晴海選手村跡地における水素エネルギーの活用について

（２）ソーシャルファーム大崎（８月28日）

・障害者就労の取組について

３．委員長所見

（１）東京都

東京 2020 大会において選手村として使用された後、子育てファミリー、高配者、外国人など多様な人々が交流できるまちづくりを進めています。

加えて環境先進都市のモデルとなるように、災害時の自立性の確立や、快適性とエコな暮らしの両立を図るなど、環境先進部市のモデルとなる都市の実現を目指しています。

分譲住宅や賃貸住宅のみならず商業施設に水素のパイプラインが整備されており街全体で水素を利用することによって低酸素化が実現できる環境にあります。

今年度開校した公立小中学校も運動場は全面芝生がひかれ、校舎にも緑が多く配置されていました。また分譲マンションにはお散歩帰りなどにペットの足を洗う場所も数カ所設置されています。

本市においては市長の公用車や水素バスを導入していますが、脱酸素社会に向けて、水素の利活用について更に議論を深めていくことが必要と感じました。

（２）ソーシャルファーム大崎

障がい者就労についてソーシャルファーム大崎で調査をしました。

就労継続支援Ｂ型事業所を廃止し一般事業所を開設したものですが、これは日本財団の企画・助成を受けるプロジェクトで脱福祉を図る日本初の事業でありました。

本事業採用における補助要件はB型事業所を廃止することであり、その補助額は、2億6,800万円でした。

事業のメリットは、自治体からの観点では一般事業所のため公費投入がなくなったこと、また就労者からの観点ではパート契約を結ぶことにより最低賃金が得られることがあげられます。そのため就労者は４時間就労なので月７～８万円の収入があるとのこと。併せて就労者の表情がB型事業所を利用していた時よりも良くなったと伺いました。併せて通勤のために近くに引っ越しなどがあったと伺いました。

一方で課題としては、人材の確保と販路及び物流等であると伺いました。

現在、水耕栽培でサラダほうれん草を栽培し、栽培面積は現在3,000㎡弱で年間48トンの収穫が目標です。これは夏場には出荷が早く３週間で出荷できるものの年間では17回転することを目標としています。

また売り上げについては850円/kgで、年間売り上げは4,000万円弱。運送会社に400円/kgのコストがかかるものであります。

就労者はＢ型事業所を利用していた方ばかりではありませんが、Ｂ型を利用していた障がい者が一般就労できる環境を作れていることが新たな発見になりました。日本財団の補助事業とはいえ、障がい者就労に関して新たな取り組みについて大変参考になりました。